

能海寛生誕150周年記念国際シンポジウム

雲南省迪慶州の雄大な雪山を背景とした能海山(ニョリカンリ)。チベット風の「神の山」として知られる。何大勇氏の談では、能海はこの雪山をおそくみていない。



雲南に消えたチベット仏教求法僧

入場無料
100名
先着順

能海寛の風景と思想

能海

寛(のうみ ゆか 1868-1901?)は明治維新直前の慶応四年五月、鳥根県浜田市の天頂山淨蓮寺に生まれました。今年は明治150年であると同時に、能海生誕150周年でもあるのです。草王思想のもとに吹き荒れた廃仏毀釈の嵐のなかで、明治期の仏教は衰退を余儀なくされますが、若手を中心に「新仏教徒」の構想が育まれていきます。意識・誤訳・省略を少なからず含む漢訳仏典を疑問視し、散逸した古代インド仏典の直訳版としてチベット語訳經典を評価する革新派は入藏熱(チベット潜入願望)を高揚させていきます。そうしたニューウェイブの旗手が能海寛と河口慧海でした。河口はインド〜ネパール経由で入藏に成功しますが、能海は中国経由で三度チベットをめざすも、雲南との境域で行方不明となります。

本シンポジウムは能海の業績を現代的視野から再検討しようとするものであり、主要な課題は能海の本著「世界に於ける仏教徒」(1893)のクリティークです。必ずしも彼の思想を礼賛するだけではなく、新仏教を「宇内一統宗教(世界統一宗教)」に位置づける大胆な構想などについては、その裏側に潜む危うさについても検証する予定です。

2018.12.1(土) 13~17時

場所: 公立鳥取環境大学(学生センター多目的ホール)

主催: 公立鳥取環境大学(鳥取市若葉台北1-1-1)

事務局: 保存修復スタジオ

TEL: 0857-38-6700(代表) FAX: 38-6775

MAIL: hozonshufuk@kankyo-u.ac.jp

(問い合わせはできるだけメールかFAXでお願ひします)

共催: 能海寛研究会

後援: 中村元記念館・鳥取県教育委員会・鳥取市教育委員会

- 講演者紹介 -

何大勇 (1968-)

雲南民族大学雲南省民族研究所教授

昆明生まれ。日本の天理大学で学士、立命館大学で修士、国立総合研究大学院大学で博士の学位を取得。専攻は民族学・環境人類学。能海・河口に関する論考として、「中国における河口慧海研究」(『アジア遺学』2019掲載予定)、「日能海寛蔵書の四川拓本研究」(『石橋』24号、2019掲載予定)などがある。



今枝 由郎 (1947-)

京都大学 ころの未来研究センター特任教授 / 元フランス国立科学研究所(CNRS)研究ディレクター
愛知親生まれ。チベット・ブータン文化史学の世界的権威(フランス国籍)。ピーター・ホップキーク『チベットの選入者たち』ラサール書庫をめぐり(白水社・2004)、ロフンデ『チベット史』(春秋社・2005)、『多田専輔全文集 チベット仏教と文化』(白水社・2007)、『タライ・イナム』(志愛堂出版局)、『トランスビュー』(2007)、『ブータンの瘋狂聖人 ドラック・パウンレー』(岩波文庫・2017)など著書・訳書多数。



◀ 能海寛 (1868-1901?) 山陰出身のチベット仏教求法僧

石見国那賀郡波佐村の浄蓮寺の次男として生をうける。哲字鑑(東洋大学)などで仏教学、漢語、英語、チベット語等を学び、チベット入りへの準備を進めるが、明治34年、中国雲南の大堰で最後の手術を行人に託した後、消息を断つ。

12:30 開場

13:00 開会の辞

開会説明 眞田 廣幸(公立鳥取環境大学非常勤講師)

13:10 第一部 能海寛の風景

1. 基調報告 岡崎 秀純(能海寛研究会会長)
「山陰から世界へー能海寛と河口慧海の時代ー」
2. 招聘講演 何大勇(中国雲南民族大学教授)
「チベットをめざしてー能海寛の歩いた四川と雲南」

14:40 ティーブレイク&スライドショー (音楽付)

15:00 第二部 能海寛の思想

3. 浅川 遼男・森 彩夏(公立鳥取環境大学)
「能海寛を読むー世界に於ける仏教徒ー」
4. 講評と質疑
【講師】今枝 由郎(京大ころの未来研究センター特任教授)
【質疑】眞田 廣幸、赤井 厚生 他

17:00 閉会の辞

